



BAIEIDO-TSUSHIN

梅栄堂通信

Vol.40

'03春号

■ 沈香
七夕 (煙ひかえめ)

氣品ある香り、静かな漂い

「沈香夏文木(煙ひかえめ)」は「好文木」の伝統的な香りはそのままに、煙をおさえた新しい時代のお線香です。

沈香、白檀など貴重な天然の香料を巧みに調合!、
静かで優しい漂いのお線香を重り出しました。

お線香としてはもちろん、お部屋焚きとしても、
ぜひ一度お試しください。



●標準小売価格 大型バラ詰 2,000円
平型バラ詰 1,000円
(消費税別)



〒590-0943 堺市車之町東1丁1番4号
TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672

謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

梅栄堂社長 中田信浩



旧年中はたいへんお世話になりました。ありがとうございました。

不況、不況と言われたところから、もうずいぶん長くなりますが、日本の経済の立ち直りには、まだ相当の時間がかかりそうですが、昨年並みの業績に踏みとどまることができましたのは、皆様のお引き立てのおかげだと存じます。

長年、高級線香を扱っております梅栄堂でございますが、昨年は、天然香のなかでも最高級のお線香『伽羅孔子木』の「大型バラ詰」を上代十万円で発売させていただきました。《伽羅孔子木》

は最高級の香木ベトナム産伽羅を配合したお線香でございますが、今回は「大型バラ詰」ということもあり、たいへん高価なものになってしまったため、当初は反対の声もありました。私自身、少々不安ではありました。が、限定百箱ということで、思い切って発売させていただきましたところ、「十萬円」という話題も手伝つたのか、発売後一週間で完売という、嬉しい結果をいただきました。

平素から、良いものをお届けしたい」という願いで商品作りに励んでおりますが、こんなに反響をいただけるとは予想いたしておりませんでした。この結果に驚くと同時に、やはり、「良いもの」をわかっていただけのお客様がいらっしゃることを、今さらながら強く

実感することができました。本年は、続いて最高級の沈香を使用した《香苑》(薫昇)《鳳龍》大型バラ詰の方も発売予定をしておりますので、こちらのほうもどうぞよろしくお願いいたします。ご承知の通り、沈香、白檀など天然香料は近年高騰しております。特に良質のものは、ますます希少になりつつあります。このような強引ある天然資源を扱っている梅栄堂といたしましては、大切に資源を生かせるよう、より良い香りのお線香作りに精進してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



美術部 お茶道具売り場▶
線香コーナーの柳岡さん



▲創業七十四年。広島の人々に愛されつづけてきた福屋



雑感スケッチ

お線香に詳しいお客様が多いお店です。
こちらの売り場に来てから四年になりますが、まず最初にお線香には多くの天然の香料が使われていることを知り、驚きました。梅栄堂さんから戴いた資料も参考にして勉強させていただいている。

広島は、昔から信仰心の厚い土地柄で、皆様、日常的にお線香を使われていて、お線香のことは詳しいお客様が多いのです。

梅栄堂の商品は安心してお勧めできますし、長年愛されてから四年になりますが、まず最初にお線香には多くの天然の香料が使われていてことを知り、驚きました。梅栄堂さんから戴いた資料も参考にして勉強させていただいている。

新しさお客様や、お線香の香りで迷われるお客様などにはできる限りのアドバイスをさせていただきますが、実際にサンプルを焚いて香りを確かめていただくこともあります。お客様には納得してお求めいただくのがいちばんだと思いますから。

お客様からも、いろいろなお話を伺います。最近のことですが、「お香を何種類か併せて焚いている」とおっしゃるお客様がいらっしゃいました。これなどは、ご自分の好みに合わせた「香りのブレンド」を創るという、な

お店を訪ねて 梅栄堂 広島福屋店



六本の支流をもつ太田川と、豊かな緑に囲まれた広島被爆後半世紀を経た今も、人々の心に残る傷跡が療されることはありませんが、現在の広島市は、国際的な平和都市として着実に歩み続けています。今日は、街の中心に位置し、広島名物の路面電車が走る八丁堀にある梅栄堂広島福屋店を訪問いたしました。

梅栄堂さんと福屋とは、当店の創業以来とても良いお付き合いをさせていたいたしておりますが、ぜひ一度、お客様に售んでいただけるような、催し物の企画を考えたいと思っております。また将来、梅栄堂と福屋の共同開



▲リニューアル後、たいへん見やすくなったと好評の店内

(或)



香りの小部屋



アジア 二都物語



パンコク、シンガポールへの旅

営業部 中田 宗克

バンコク(ドンムアン空港)早朝着

空港からバンコク市内にかけて片側四車線の高速道路を走る。タクシーをはじめ走っているのは、ほとんどが日本車。そこから見える看板はといえば、SONY、三菱など日本企業のものばかりだ。ここ何年か前までのタイ経済の急成長に、日本企業がどれだけ大きく関わってきたかが伺える。とりあえず、ホテルにチェックインし、バンコクの北八十キロメートルにあるアユタヤに向かうことに。バンコク駅からアユタヤへは列車で二時間の旅だ。料金は十五バーツ(約四十五円)ととても安い。もちろんノーエアコンに木製の硬いイスで、座り心地は辛いものが多かった。しかし、窓を開けると風が心地よい。車窓からは線路脇で寝食している野良犬や、川で水浴びしている子供た

ちが見える。ゆっくりと時間が流れ、ああタイに来たのだという、なんともいえない感情を感じることが出来た。

そうこうしているうちにアユタヤ駅に到着。駅ではたくさん的人が笑顔で出迎えてくれる。観光ガイドの人達だ。早速それの中の一人に肩をたたかれる。結局、一時間二百バーツ(約六百円)で交渉が成立し、四時間案内してもらうことになった。タイ名物の乗り物「トゥクトゥク」に乗せられていざ出発だ。トゥクトゥクは日本で昔走っていた二人乗りの三輪貨物自動車「ダイハツミゼット」を改造したものだ。我々は荷台(一応イス付き)に乗せられて運ばれていく。いや観光地へと案内される。アユタヤは十四世紀から四百年余りの間栄えたタイの古都だ。多くの寺院にある黄金にきらめく仏像に王朝時代の栄華がしのばれる。ちなみに、アユタヤをはじめタイの寺院では、たいていは「竹の線香」が使われていた。

空路シンガポールへ。

空港に取引先の人達が出迎えにきてくれ街に向かう。シンガポールはご存知のとおりゴミ一つ無いきれいな街だ。緑あふれる気持ちのいい街並みが続く。有名なベジタリアンフードのレストランでウェルカムパーティーの歓迎をうける。とても野菜とは思えない

いような美味しくオシャレな料理に、お腹も心も大満足だ。食後は夜景の名所フィーバーマウンテンまでドライブ。頂上のバーから見る夜景の美しさは最高だった。しかし、ふと回りを見ると、ここは人気のデートスポットらしい。あ

そこにも、ここにも夜景を見ているのはカップルばかり。ちなみに我々は男性ばかりの四人組だったのだ。

取引先を訪れる。

取引先の店頭には沈香、数珠、仏像、書籍などと共に、栴檀堂の商品もたくさん並べられていた。なかでも神秘的な香りの「梶香園」や、十二種類の香りがある「AKIKO」に興味があるようだ。シンガポールに人も人種ごとに色々なストリートがある。この国は典型的な多民族国家で、

はじめて訪れた東南アジアへの旅は、予想以上に魅力的なものだった。宗教色の濃い文化、多民族が共存して住む社会は、我々日本の中ではまったく経験できないものだ。今回の旅で、新しい価値観にふれることによって、自分の中で少しは世界観が広がったように思えた。そして「沈香」はタイでもシンガポールでも愛されていて、國が進って使い方も様々だが、その「思い」が

ここには沈香を売る店があるからだ。建設を中断したような骨組みだけの建物や、漂ってくる悪臭など、なにやら少々危険な雰囲気だ。この辺りには沈香屋が軒を並べる。アラブ人街なのに、なぜか華僑の人が経営している店も多い。日本と同様タイでも沈香は重宝されていて、产地セイテー(二応イス付き)に乗せられて運ばれていく。いや観光地へと案内される。アユタヤは十四世紀から四百

年余りの間栄えたタイの古都だ。多くの寺院にある黄金にきらめく仏像に王朝時代の栄華がしのばれる。ちなみに、アユタヤをはじめタイの寺院では、たいていは「竹の線香」が使われていた。

アラビアンストリートに行く。

バンコク市内に戻りアラブ人街に行く。

ここには沈香を売る店があるからだ。建設を中断したような骨組みだけの建物や、漂ってくる悪臭など、なにやら少々危険な雰囲気だ。この辺りには沈香屋が軒を並べる。アラブ人街なのに、なぜか華僑の人が経営している店も多い。日本と同様タイでも沈香は重宝されていて、产地セイテー(二応イス付き)に乗せられて運ばれていく。いや観光地へと案内される。アユタヤは十四世紀から四百年余りの間栄えたタイの古都だ。多くの寺院にある黄金にきらめく仏像に王朝時代の栄華がしのばれる。ちなみに、アユタヤをはじめタイの寺院では、たいていは「竹の線香」が使われていた。

(終)



アラブではこのようにして「お香の音を聞く」そうだ。



季節の到来を告げる花

沈丁花



沈丁花 春の月夜となりにけり

盧子

冬の寒さも和らぎだ頃、小道を歩いていて、ふと何処からか漂ってくるあの独特の香りに気づく。導かれるようにその香りをたどっていくと、ひつそりと咲いている沈丁花に出会い、「ああ、もう春なんだな」と感じる。そんな経験をされた方も多いかと思います。沈丁花は、秋に咲く金木犀となんで、我々に季節の到来を感じさせてくれる印象的な花といえるのではないでしようか。

沈丁花は中国原産のジンチョウゲ科の常緑灌木で、高さは一メートル前後になります。肉厚の葉の間から三、四月頃にいくつかの小さくまとまつた小さな花を咲かせます。つぼみの時は赤茶ですが、開花す

ると内側は白く、同時に独特的の芳香を放ち始めます。沈丁花の名前の由来は、香木である沈香の香りと丁子の花姿を合わせ持つところから名づけられたといわれていますが、中国名は「瑞香」といい、高僧が夢に見たことから、おめでたい花とされています。我国に中国から渡来したのは江戸時代で、その後、庭木として盛んに栽培されるようになりました。

沈丁花の香りを放つててくれる花として、屋外では私たちを樂しませてくれる沈丁花ですが、(茶席)に生けるのはタブーとされています。理由はその香りの強さにあります。せっかく薫き染めたお香の香りの邪魔をするためで、『禁花』として使ってはいけないことになっています。

沈丁花の香気成分は、スズラン様の香気を持つリナロールを中心に、百二十五種類もの香氣成分から成り立っていますが、抽出すると変化してしまうため、天然香料としては、あまり使用されていないのは残念なことです。



●新商品紹介

ご進物用桐箱セット 新発売

このたび、皆様にご好評をいただいているお盆香の中から、(平型二入桐箱セット)として全四種類揃えて、お届けできることになりました。

こちらは、それぞれのお線香がもつ香りの個性を、その時々にあわせてお気軽に楽しめるいただける商品となっております。バラエティ豊かな香りの数々をご堪能下さい。

ご進物に、またお部屋焼きとして、ぜひご愛用いただきますようご案内申し上げます。

●標準小売価格

(今号の表紙) 各三、〇〇〇円(消費税別)

●話題

「ときの採訪」

NHKラジオで生中継

「いきいきクラブ」(六月二十六日)

の「ときの採訪」は歴史と風土が

の「中継でおじやします!」

育んだ日本の文化を紹介する番

のコーナーでは、お盆前で活気

のある梅栄堂のお線香工場から

生中継。沈香を挽く音が聞こえ

る現場から、中田社長を交えて

お線香にまつわるエピソードに

花が咲き、楽しいレポートにな

りました。沈香を挽く音が聞こえ

る現場から、中田社長を交えて

お線香にまつわるエピソードに

花が咲き、楽しいレポートにな

りました。梅栄堂で取材の後、貿易港埠に

もたらされた香料から、埠の商

人たちによつて生み出された線

香の歴史や、職人たちの技と心

意気が、格調高いナレーション

と共に紹介されました。

各種雑誌に掲載

「日経ベンチャード」十月号では、

とレポーターが埠駅周辺を散策し、ゆかた姿の似合うスポーツ

を訪問しました。和風小物を扱

つていて「古香堂」を訪ねてお買

い物をしたり、その後は梅栄堂

に立ち寄って香道教室を訪問。

戸惑いながらも初めての香席を

体験されました。

ユージアムに指定されている梅栄堂などの伝統産業が紹介されました。

工場見学、香道体験

高石婦人団体協議会、広島加汁

学園、ほか多くの方々が工場見学や、香道体験に参加されました。皆さんメモを取つたり質問をされたりして、熱心に参加されておりました。

こちらは、それぞれのお線香がもつ香りの個性を、その時々にあわせてお気軽に楽しめるいただける商品となっております。バラエティ豊かな香りの数々をご堪能下さい。

ご進物に、またお部屋焼きとして、ぜひご愛用いただきますようご案内申し上げます。